

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171200585		
法人名	株式会社 ウイズネット		
事業所名	グループホームみんなの家・三郷		
所在地	埼玉県三郷市早稲田2-26-17		
自己評価作成日	平成28年11月6日	評価結果市町村受理日	平成29年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が安心して落ち着く環境を提供できるよう、常に心がけています。一人一人のペースを大切にし、グループホームに入ったからという制限する事なく、今まで行ってきた事が続けられる環境、そして更に「出来る事」が増えていくような環境を提供しています。
 堅苦しいスケジュールは組んでおらず、ご利用者様のしたい事などを聞きだし、ご利用者様に沿ってサービスを提供させて頂いています。また、ほぼ毎日のように散歩へ出かけ、時には買い物へ行き近くの公園でおやつを食べてピクニック気分を味わったりしています。室内では、季節を感じて頂けるようなレイアウトをご利用者様と一緒に作成しています。
 ゆっくりとお話する時間を大切に、ご利用者様の心に寄り添ったサービスを提供しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ゆっくり寛がれる時間には将棋を指したり、自らモップを持ち掃除に励まれる方など、利用者主体の生活を過ごされている。また、ひとりで編み物を楽しまれたり、ゆっくり新聞に目を落とす方やパズルに興じる方など、楽しく過ごされるようチームで支援に取り組まれている。
 ・職員の業務スケジュールは最小限とし、常に利用者の立場に立ったサービス提供が行われ、利用者温かく寄り添い、利用者本位の心のこもったケアが行われている。
 ・目標達成計画の達成状況については、運営推進会議の構成メンバーに地域包括支援センター職員の参加協力を得たことと市同業者他社との交流の機会を持ちサービスの質の向上に向け取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に沿った介護サービスが提供できるよう、職員同士意見交換をし、実践に繋げている。	職員全員で創られた事業所理念のもと、利用者の思いや個性、生活リズムを大切に、その人らしく、笑顔で穏やかな日々を過ごされるようチームでケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(夏祭り等)へ参加したり、散歩に出かけた際に地域の方と挨拶を交わしている。	散歩や買物など外出の際には地域の方と挨拶を交わし、立ち話などされている。また、地域の祭りでは盆踊りの輪に加わるほか、ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学へ来られたかた、ご家族へ対し認知症についてお話させて頂いている。また地域の介護イベントへ参加し理解を広める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所・地域包括支援センター等へ日々のサービスの実践状況、事故報告をし助言を受けサービスの向上に努めている。	事業所から日常のサービスの取り組み状況や事故防止対策などの報告のほか、外部評価結果と課題についてなど、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所・包括等に積極的に足を運び、協力関係が築けるよう情報交換をしている。	申請手続きや報告・相談などの機会のほか、定例の情報交換会や介護フェスタなどでコミュニケーションを図られ、良好な協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロを継続していくため、毎月身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアの確立に努めている。	身体拘束廃止委員会を中心に事業所全体での勉強会のほか、全職員向けのアンケートが行われ、管理者及び全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員会議にて、事例を用いて虐待防止について勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議、都度勉強会にて資料を用いて意識の向上に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様の抱えている不安や疑問点などを訪ね、十分な時間を使い説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様とお話する時間をとても大切にしているの、自然と要望を聞けるような環境が出来ている。またご家族様が面会に来られた時はお話する時間を設けている。	利用者とは1対1となる散歩や入浴時など話しやすい環境を利用し、家族とは面会時やケアプラン更新時などの機会に意見・要望を聴き取られている。その意見や要望は職員間で話し合い、運営やサービスに反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見が出た場合は、十分時間をとり話を聞き、状況によっては他職員の意見を聞き反映している。	全体会議やフロア会議のほか、発言しやすい職場環境の中、職員間のコミュニケーションも良好で、活発に意見・提案が行われ、一人寂しい思いに沈む利用者への温かく寄り添うケアなど、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の良いところを見つけ常に伝えるようにしている。一人一人と話す時間をつくり話しやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の実績に合わせて研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回は連絡をとり情報交換し、3ヶ月に1回のペースで集まり、交流する機会をつくっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常に利用者様の立場に立ち考えるように心がけています。本人の不安や希望を読み取り、安心して頂けるような対応を提供しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安に思っている事を引き出し、一つ一つ丁寧に納得されるまで説明しています。ご家族様とはこまめに連絡を取るよう心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の立場に立ち、今必要としているサービスを見極めて提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様ひとりひとりに役割を持って頂き、生き生きと共に支え合いながら関係を築いていけるよう環境づくりをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子をご家族様へ報告・相談している。ご利用者様の日々の様子の写真等をお送りしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人来設時にはゆっくりと時間を過ごして頂けるよう配慮している。	昔の職場仲間やご近所の方の面会、電話の取り次ぎのほか、馴染みの理容店に出かけられたり、お孫さんと一緒にの外出、家族の協力を得て自宅に戻りゆっくり過ごされるなど、これまでの関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の性格ご利用者様同士の関係性等を把握し、フロアの席順等に工夫している。また各階を行き来し、他フロア同士でも交流が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族様やご利用者様が困っている事があればフォローできるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの希望や意向が把握できるような信頼関係を築いている。また意思表示が難しい方は表情や行動で汲み取るよう努めている。	利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添うことで、思いや意向を把握されている。意思疎通が困難な利用者についても言葉や表情・仕草などから汲み取り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時はもちろん入居後も、ご家族に本人の馴染みの事を伺い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの心身状態、残存機能など把握し職員同士で情報を共有している、出来る事は行って頂き出来ないところはお手伝いさせて頂く。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様・本人の要望をくみ取ったうえで職員同士で意見を出し合い、介護計画作成に勤めている。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切にした介護計画が作成されている。また、適宜モニタリングを行ない、見直しについて検討をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況を記録し、課題をあげ情報を共有しながら介護計画への反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれることなく、その時のニーズに合わせ柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が心身の力を発揮しながら生活できるように趣味等を行える機会を提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による定期往診を受けながらも、ご家族様の希望する医療機関への通院介助も行っている。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期往診時に気付きや状態の変化などを報告・相談し、必要があれば医療機関へ連絡し適切な医療が受けられるよう対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には、お見舞いに行くとともに早期退院に向け医療機関との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針に基づき、早めにご家族・Dr・職員で話し合い、事業所で出来ることに取り組んでいる。	入居時に重度化・終末期についての話合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後も意志確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、重度化や看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時、速やかに対応できるようにマニュアルを掲示している。また職員会議などで随時緊急時の対応について話し合いより向上できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1年を通し、職員全員が避難訓練に参加できるように工夫している。避難経路・消火訓練の実施。避難訓練の際、周辺地域にも声をかけ、協力体制の築きに努めている。	定期訓練では夜間時に1階台所からの出火を想定し、初期消火・通報・一次避難場所への誘導訓練や水害を想定した防災計画の再整備に取り組まれている。また、備蓄品の整備や災害時協力者の確保など、体制整備に努められている。	災害対策には充分取り組まれているが、高齢の利用者をあずかる事業所として、火災や地震のみならず、災害時の組織対応力の向上に向けた取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に排泄時・入浴時はプライバシーを損ねないように配慮した声掛け対応を行っています。	ドアの開け放しはしない。排泄や失禁時には周りに気づかれない声かけされるなど、利用者的人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな取り組みが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、声掛けの仕方を工夫しています。考える力を維持できるよう答えが出なくても選択する機会を提供しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者様の立場に立ち考え行動しています。職員側の決まりは最小限しか決めておらず一日の流れは利用者様に沿って行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容や更衣など利用者様に選択して頂き、鏡を見る機会写真を撮る機会をつくり身だしなみの意識の維持に努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人に合わせたメニューも場合によっては提供している。また毎食後、食器類の片づけは利用者様に行って頂いている。	利用者個々の状態に合わせ、食材の下拵えや食器拭きなど職員と共に行っている。朝食のパンやお醤油にこだわりを持つ方などもおられる。また、年越し蕎麦やお節料理、季節ごとのイベント食など、食の楽しみを大切に支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量を記録し、必要な分を摂取できているか確認し、摂取できるよう努めている。また状態に合わせ、食事形態の工夫・趣向品などの提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科Dr・歯科医衛生士による指導の元、口腔内のケアの実施に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員の時間で動くのではなく、一人一人の排泄リズムに合わせて声掛け誘導を行っている。	一人ひとりの力や排泄パターンを把握し、定期的なトイレ誘導を行ない、出来る限りトイレでの排泄支援をされている。また、利用者の羞恥心にも配慮し失禁時には、他の利用者にはわからないように声掛けするなど、気配りされたケアをされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りすぎず、水分補給や適度な運動などをしていき、なるべく自然排便が出来るよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の希望に沿い入浴して頂いている。入浴の時間が流れ作業にならないように時間をしっかり持ち大切なコミュニケーションの場として認識している。	できる範囲で利用者の希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には無理強いすることなく、声掛けや時間を工夫し、利用者の状況に合わせた支援をされている。また、リフト浴の活用や職員複数での介助体制をひくなど、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を把握し、なるべく今まで過ごされてきたペースで過ごして頂けるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬の用途がすぐに確認できるようにファイルしている。薬事表は個別にファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を把握し、一人一人に合った役割を見出し行って頂いている。役割を持ち張りのある生活を送って頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	特に散歩の時間等は決めておらず、行きたい時に外に出られるように対応しています。季節のイベントごとに外出し季節を体感して頂いています。	散歩や外気浴、畑仕事や近くの公園でのお花見やピクニックを楽しんでいるほか、地域の夏祭りに出かけられている。また、家族の協力を得てショッピングモールでの買物や食事に出かけられるなど、利用者の希望を大切に、外出の機会を多く持つよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様了承のもと金銭の所持をしております。使用の際は、職員が共に外出し、使用する機会を提供している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望には答えられる範囲で、対応しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様が歩かれるスペースには物を余り置かないようにしている。季節感が感じられるように壁飾りし、居心地良く過ごして頂けるよう工夫しています。	利用者がゆっくり過ごされるよう、リビングルーム中央には柿や栗、紅葉など季節感溢れるカラフルな切り絵が飾られているほか、赤や黄に色づいた隣家の庭を借景とし、明るく広々としたスペースが確保されている。また、室温や湿度、採光や居室表示など、きめ細かな配慮がとられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた空間づくりを常に心がけています。気の合う利用者様同士過ごされていたり、一人の時間を大切にしたりとそれぞれで過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、新品でも構いませんが馴染みものがあれば持ってきていただくようにしている。	家族の写真や位牌、馴染みの籐製の家具や好みのぬいぐるみなどが持ち込まれ、利用者が落ちついて過ごせるよう工夫をされている。また、毎日掃除の時間が設けられ、共用スペースを含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握し共有し、利用者様にとって「出来る事」がスムーズにできる環境づくりを工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホーム みんなの家・三郷

作成日: 平成29年1月19日



目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	12	生き活きと働けているものの、深刻な人員不足によりレク活動など出来る事が限られてくる。	人員不足解消	折込広告や職員からの友呼びなど工夫し人員不足解消に努める。働きやすい職場のアピール。	6ヶ月
2	12	人員不足になり、シフトを回す事で精一杯となっているところがあり、余裕がみに。	人員不足解消	折込広告や職員からの友呼びなど工夫し人員不足解消に努める。	6ヶ月
3	4	担当者会議、家族会ともに、通知は出すものの参加人数が少ない	参加者増加	参加者(特に家族等)増えるような工夫を検討、レクや勉強会と一緒にを行う。	6ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。